



# 学校だより

2月号

令和3年1月29日

## ぐんぐん伸びる ぐんぐん教室

校長 青木 和裕

「算数：分数÷整数の計算の仕方、約分を先にと話したが、うなずくだけで話さない。少しずつ話せるようにしたい。」（6月9日、分散登校時の入り込み支援）

「国語：説明文、私が読んだ後を続けて音読する。少しずつだが、うまくなった。読んだ後、『コミュニケーションって、何ですか。』『もめるって、何ですか。』と自分から質問してきた。感想では、この人はコミュニケーションが大切と言いたいんだよ、と言った。どんなコミュニケーションがよいか、二人で話し合った。」  
（1月22日、ぐんぐん教室での授業）



二つ橋小学校は、今年度より「国際教室」を開設しました。前期の紙面による学校説明会でお知らせしましたが、開設より半年が経過した国際教室の歩みと現状をお伝えします。

国際教室は、外国籍及び外国につながる児童が指導対象です。本校にも、対象児童は十数名在籍しています。日常会話をする分には、日本語に不自由していない子どもたちがほとんどです。しかし、学習で使う語彙、微妙な言葉のニュアンス、発音やイントネーション、漢字等は、思うようには身に付きません。普段の教室での授業では、常に一人の子のそばにいて個別に指導をすることは不可能ですが、この国際教室では、それが可能です。この教室の子どもたちの学力がぐんぐん伸びることを願って、本校では「ぐんぐん教室」と名付けました。

4・5月の休校期間を使って、ぐんぐん教室の環境整備、教材研究・準備、参加予定児童の実態把握（新旧担任との情報共有や保護者との面談）等を、今年度担当の河埜教諭が進めてきました。そして6月、今年度の教育活動が始まりました。最初は対象児童のいる学級に担当教諭が入り込み、TTの形で児童の実態を実際に自分の目で確かめながら、個別の支援を進めていきました。本格的にぐんぐん教室での個別指導が始まったのは、7月に入ってからです。初めは、上記のようにコミュニケーションをとることもままならない児童が多かったのですが、児童理解を深め、教師と子どもとの人間関係を構築していくにつれ、温かい学びの場がつくられていきました。担任と担当教諭、児童支援専任教諭が密に情報交換をし、その子に今どんな支援が必要かを話し合ったうえで、その時間の学習内容が決まります。考えてみれば、これは本校で継続して取り組んできた、スキルアップルームでの指導と目的は同じです。一斉指導の場面では理解したり表現したりするのに時間がかかるが、個別の声かけや指導をしていけば、少しずつではあるが力を付けることができる。そんな個に応じた指導をする場が、もう一つできたのとらえていただければ幸いです。

対象児童とぐんぐん教室で授業をするだけでなく、その子のいる学級に入り込んでTTとして指導していくことで、こんなよいこともあります。それは、たとえば運動会の練習時、担任2～3名が指導する場面で、もう一人の目が加わることで、子どものよさや伸び、課題を見取る時間や回数が増えます。直接対象の児童のみならず、気付いたことがあれば、どの子に対しても励ましの言葉、支援の声かけ、安全面の指導等をするのは、本校の教職員として当然のことです。

来年度、新たにぐんぐん教室での指導を希望される方は、いつでも学校（担当：伊藤）までご相談ください。また、スキルアップでの指導を希望される方は、木村学校カウンセラーまでご相談ください。これからも、子どもや保護者の願いを受け止めながら全教職員で共通理解を図り、子どものよりよい成長に向けて指導・支援を重ねてまいります。引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。